大映スコープ
総天然色

濡れ髪三度笠

大日傘、反物、西瓜等が飛ぶ！

雷蔵大あばれの 濡れ髪三度笠 上賀茂ロケ

淡路にからまれて更に一汗

2960-15

大映京都撮影所宣伝部
京都市右京区太秦蜂ヶ岡一番

たびきき来い親人的な今日このころの夏天下で、市川雷蔵がけみとるの夏本髪にあばれる撮影が、このほど京都上賀茂神社境内で、ホキメキタ江戸人を使って行われた。

映画は『濡れ髪三度笠』（同中田氏監督、オキシ）、シーンは所蔵地子の助れて、旅の風来坊が城崎にまきこまれたおしのびの吉様を助けるところ。

ロケは二日間にわたって行われたが、最初の日は、本郷功次郎の吉様が之助の仲間知らずの行動を中心に、鳴きシャの女仲間、ダイナル・ケケタトの宿泊客などとの喜劇的なやりとりがあって、最後に長崎オレンチキ勝博にひっかかって、ケキ屋の仲間との大乱闘になるところで終った。

次の日がいよいよ、雷蔵、淡路の登場で、市松とケキ屋の城崎の流れが、城内の小川のほとりでやってくると、此之助に扮するまわされた一人がたたらを踏んで、子宮川のほとりにしゃがんで水を汲っていた長に人風の男にすがろうとすると、その男はスタッと体をかわしたので、ケキ屋はそのまま川のなかへドブン。

ここで城崎は二度に分れて、主流はそのまま川のやくざ平次郎の方に向い、ヤヤグ絡出のチャキルな立廻りが開始される。

まず、平次郎は市松の出店の一つ、風車屋の大きな日傘を引っこ抜いて振りまわし、雷蔵を追を追撃、次に出張屋の店先では、片っぱしから反物をぶっけ、はどけた反物をうまく雷蔵の首にひっかけてなやます。第三は西瓜屋の前に移って、丁度立向って来たケキ屋の親分の頭にぶっつけ、ダンチケと流れた西瓜が、スッポリ頭にかぶせてしまう。最後のダマの連発のところでは、万歩に移ってある瓦屋に余る大刀を、平次郎がスタッと抜き放ったところ、なんと瓦屋さん三〇キンチくらいの重い刀なので、本人もすっかりたまげてしまうという、爆笑いたっぷりの場った立廻り。ときのつまり、棒をふるって相手を追を金棒通いもらして、市次郎や旅の市次郎さまから「日本一！」「大統領」の声がかかる。

ところが、それほど成功したはずの平次郎が、城中かけて棒を通ってきたお嬢ちゃんのル嬢（長島恭子）にからみつかれるも、ほうほうのていで逃げて行くというオチまでついていて、雷蔵はケキ屋相手の立廻りだけでなく、今度はあくまで色っぽくからみついてくる淡路を相手にしなければならなかった。

そのため、雷蔵はヤッパ風に扮して降参してきた冷いアイスをすっかりカラにしてなお足りない御付き、淡路も撮影の合間にブッタキ水をかじりかじり、ほうばったまゝタメ息に出るなどいとも微笑ましいケキ風景だった。